

(様式第 1 号)

## 新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究 課 題	「オズウイルス感染症の血清疫学調査」に関する試験研究
担 当 者	大澤修一、渡邊颯太、小室慶子、大久保朝香、坪山勝平、絹川恵里奈、 會田未希、本谷匠
計画期間	令和 7 年度～ 令和 10 年度 4 年間
背 景 必 要 性	オズウイルスは 2018 年に愛媛県のマダニから発見された新規ウイルスである。これまで世界的にヒトでの発症や死亡事例は確認されていなかったが、2023 年に茨城県においてオズウイルス感染症患者在世界で初めて確認された。 本ウイルスは野生動物の血清疫学調査において、国内に広く分布することが報告されている。しかし、ヒトでは大規模な血清疫学調査は行われていないため、ヒトへの感染リスクは不明である。
目 的	オズウイルス感染症患者在確認された唯一の県である本県において、ヒトの血清疫学調査を行い、オズウイルスのヒトへの感染実態を解明する。
計画内容	水戸赤十字病院において新型コロナウイルス感染症患者(2020 年 3 月～2022 年 12 月、約 2000 人) から採取した血清の残余を用いて、オズウイルスの血清学的検査（ELISA または中和試験）により抗体陽性率を算出し、ヒトの抗体保有状況を把握する。 なお、本研究は、茨城県疫学研究合同倫理審査委員会の承認を得ている。
研究目標 (達成しようとする成果及びその活用方法)	ヒトでは大規模な血清疫学調査は行われていないため、茨城県内のオズウイルスの感染実態を明らかにすることにより、ヒトへの感染リスクの評価を行うことができる。また、オズウイルス感染症における感染予防及び早期診断・治療に寄与する。
所要経費 (概算)	経費 内訳：旅 費 原材料費 (400 千円) 需要費 400 千円 役 務 費 使用料 そ の 他
実施上の 課題及び 対 応	多検体処理に適した抗体価測定方法を検討する必要がある。
備 考	

(様式第 10 号)

## 事前評価結果報告書

令和 7 年 9 月 11 日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博一

(押印又は自署)

調査研究課題	「オズウイルス感染症の血清疫学調査」に関する試験研究
--------	----------------------------

評価項目	評価	意見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、4 平均評価点 4.9	オズウイルスは国内で広く分布しているが、ヒトへの感染リスクが未解明であるため、患者が唯一確認された本県で感染実態を解明することは重要である。	
②目的の適合性	5、5、5、5、 5、5、4 平均評価点 4.9	本県において、オズウイルス感染症患者の死亡例が世界で初めて報告されたことより、県の感染症対策として重要である。また、結果によっては、他県への注意喚起に繋がる。	
③計画内容等の妥当性	5、4、5、5、 3、5、4 平均評価点 4.4	多数検体処理の検査法を検討して臨床試料に適用することは、費用対効果のバランスがよく、計画は妥当と考える。	
④目標の達成及び活用可能性	5、4、5、5、 5、5、3 平均評価点 4.6	ヒトへの感染リスクの評価が実施できれば、感染予防及び早期診断・治療に寄与し、成果の有効活用が期待できる。 ヒト血清は確保してあるという事だったが、県内地域、男女比、年齢構成などが不明確であったで、出来れば条件をそろえて調査することが望まれる。	
⑤総合評価	5、4、5、5、 5、5、4 平均評価点 4.7	新興感染症としてのオズウイルス感染症の血清疫学は、原因ウイルスの病原性やウイルスの浸潤を客観的に評価するために必須な研究課題と考える。 地道な研究であるが、ヒトの感染要因を検討するのは、衛生研究所の重要な責務であると考ええる。	
⑥計画実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：7名 B：0名 C：0名  最終評価 A B C	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好